【「熊本の心」推進協議会賞】

みんなで獲ったゴールド

多良木町立多良木中学校 2年 那須 唯菜

部員全員で立った県立劇場。あの日の輝くステージと、みんなの涙混じりの笑顔を私は一生忘れないだろう。

私は中学校1年生から吹奏楽部に入部していた。入部した当初から、学年を問わずとても仲の良い部活動だった。日々の練習は、大変で疲れることもあるが、それ以上に楽しく充実している。部員も多いため、毎日が賑やかでとても面白い部活動生活を送っている。

今となっては部員が約40人にもなった吹奏楽部だが、ずっとそうであったわけではない。なんと私が中学校に入学する前は、たった数人しか部員がいなかったのだ。しかし、そんなに少ない部員数でもこの吹奏楽部が残ってきたのは、たくさんの先輩方の努力やたくさんの方々の協力があったからではないだろうか。今こうやって自分が楽しい部活動ができていることは、たくさんの方々の支えがあってこそだということをおぼえてはいけないと思う。

私たち吹奏楽部の最終目標は、人間性を磨くということだ。周りに気を配って自分から行動をする。気持ちの込もったあいさつを積極的にする。そういった人間性をつくり上げることが私たち吹奏楽部の最大の目標である。そういった人間性によって、より美しいサウンドができるのだ。また人間性の中には、人を許すことができる優しい人になるという目標もある。周りから言われたことに反発するばかりではなく、「確かにそうかもね」と認め合うことも大切だということだ。その全てが、自分の出す音一つ一つに反映されると言っても過言ではない。そして一人一人の人間性が磨かれれば、そのバンドはとても素晴らしいものになる。私たちはそれを目指して日々の練習を頑張ってきた。

その最終目標である人間性の形成を実現するための過程として、金賞を獲ることを一つの目標としてきた。しかし、金賞というものは簡単に獲れるわけではない。最後まで諦めずに金賞を目指したいという想いは皆一緒だった。みんなの目標は、金賞一択だった。

コンクールまで後2カ月程の時。とある事情で部活動に來れなくなってしまった人がいた。みんなでおぼえていた。そのおぼえからみんなでおぼえにその人に「今日は來れそう?」「少しずつで良いからね。」「一緒に頑張ろう。」などの励ましの声をかけるようになった。いつの間にかみんなの目標は、「金賞」から「みんなで金賞」に変わっていた。みんなの絆がより一層深まった気がした。

そして、いよいよ本番の日が來た。欠席者は0。全員でコンクールに出ることが出来たのだ。今までで一番楽しい演奏だった。そしてなんと結果は金賞。学校に歸り着いたとたん、皆で涙を流しながら抱き合った。その涙には感動と驚きと達成感とそしてたくさんの方々への感謝が詰まっていた。